発行所
社会福祉法人
ダブルエッチジェー
防災委員会
松原 森下 関島 石川.菅
野 井田 瀧川.祢宜田
計 三角 9名

防災通信

第⑯号
2026年（令和8年）
９月３０日発行

起震車体験会レポート（半田・碧南）

ダブルエッチジェーの皆様こんにちは防災委員会です。
今回の16号の特集記事ですが、先日行われました起震車体験会の様子を順にレポートしていきたいと思います。
令和8年度の起震車体験会は９月１４日に半田のすだちの丘で、９月１６日はガイアでそれぞれ行われました。
まずは最初に行われた半田の起震車体験会ですが、今年で４回目を迎えており、毎回沢山の方に体験していただいています。とくに今年度は利用者様の参加も多くみられたのも特徴的でした。



最初は毎回大好評の防災安全課の職員による講義から始まります。プロジェクターを使用しながら地震についての備えを分かり易く説明して頂きました



こちらはシェイクアウト訓練の様子です。姿勢を低くして出来るだけ小さくまとまることで物が当たって怪我する確率を減らす効果があります。





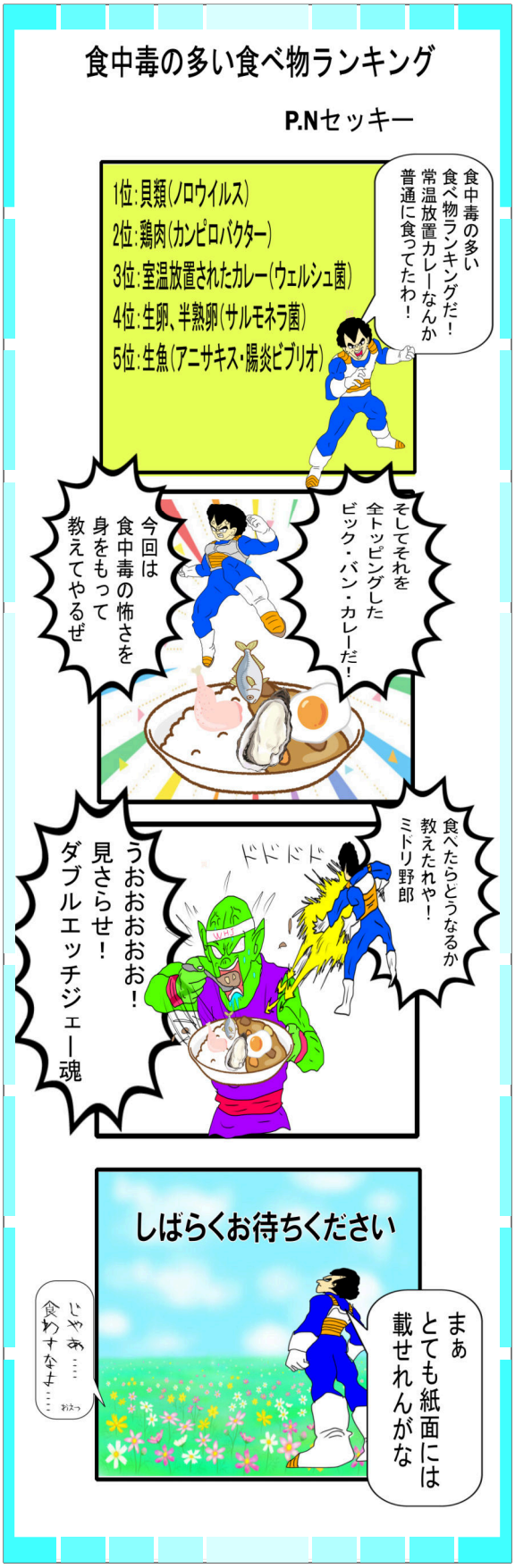
４~５人のグループに分かれてトイレの実験も行いました。新聞紙、猫砂、凝固剤のそれぞれの吸水性の違いについて利用者様も交えて行なうことができてとても有意義な実験となりました。トイレ問題は普段はあまり気にしませんが災害時にはそれこそ死活問題にもなりえる重要事項です。





こうした取り組みを重ねていくことで、その重要性を理解していくきっかけになると強く感じました。こうしてひととおり講義が終わりまして、いよいよ起震車体験となります。

起震車体験に関しては、悲鳴が中にも聞こえてきましたので言わずもがなその揺れのパワーに、毎回圧倒されるばかりです。私も色々な場所で何十回と体験していますが未だに怖いです。こういった直接的な大きな揺れは中々慣れることは無いと感じています。
そのような感じで体験会も進みましたが、ただ、今回は天候不良にて途中で体験を中止せざるをえず一部の施設の方に来ていただいていたのに体験できず申し訳ありませんでした。ぜひ次回にご期待ください。



それでは防災委員会のブースも少し見ていきましょう。





今回初の試みですが防災備蓄食の試食会も行いました。備蓄パンの方はしっかりと味がして非常に美味しかったと思います。ご飯の方はどうでしたか?ちょっと味が薄くなかったですか?防災備蓄食も今は様々なメーカーから多種多様な品がでています。皆さんもこうした体験を通じてぜひ自分好みの備蓄食探してみるのも面白いかもしれませんね。



さて、他にも毎度おなじみのVRコーナーや備蓄品の展示も行いました。VR映像も色々な自治体で開発が進んでおり、YOUTUBEでも毎年新しい映像が色々と出て来ています。ことしは愛媛県の映像を使用させていただき「地震」「津波」「風水害」「火災」の4つ映像を用意させていただきました。体験した方は分かると思いますが途中でクイズが出てきたりして非常にバラエティーに富んだ内容となっており映像の進化を感じました。





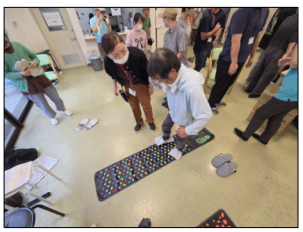
こんな感じで半田の起震車体験会も無事に終わり、明後日は、いよいよ今回初開催の碧南地区での起震車体験会です。…のはずでしたが当日は朝から土砂降りの雨で誰の目から見ても中止は濃厚でしたが、時折、小雨になることもあったので、一縷の望みにかけて交渉をして頂いた結果、施設までは来ていただくことができました。残念ながら最後まで稼働することは出来ませんでしたが初めて起震車を見た方もいたと思いますので来ていただけでも良かったと思います。



というところで残念ながら起震車は動きませんでしたが、他のブースは予定どおり行なわれ、沢山の方々に来ていただきましたので順に見ていきましょう。

会場は雨でしたので急遽、ガイアの1階をお借りしまして、防災委員会のブースを出させていただきました。今回、碧南地区での開催は初めてですので、出来るだけ初めての人でもとっつきやすいテーマを心掛けました。







まずこちらのブースでは地震時に足元の悪さを体験してもらうために、足つぼマットの上を素足と作成した新聞紙スリッパと交互に歩いてもらいました。素足では結構痛かった足つぼマットもスリッパがあるだけで歩けるようになったのでびっくりされる方も多かったのではないでしょうか?





こちらのコーナーはドライシャンプーと歯磨きシートの体験です。どちらも災害時に衛生状態を保つことは生命を守るための重要な要素です。初めて使われた方も多かったのではないでしょうか?

百均で買える防災グッズコーナーも展示させていただきました。各委員が好みで選んだ防災グッズを展示させていただいたので非常にバラエティ富んでおり、会場からはこんな物も買えるんだと驚きの声もあがっておりました。





さて右の写真の人だかりは何だと思いますか?これはですね。理事長がその場のノリで車載用緊急脱出ハンマーの商品説明をしているところです。軽快なトークに引き付けられて皆が集まっていて流石だなぁと感じた一幕です。

今回は身プルエッチェジェー以外にも碧南社協さんも同じようにブースを出していただいておりました。社協のブースではレゴブロックを活用した避難時を再現していて、非常に丁寧に避難所の説明がしてありました。



またこのレゴ避難所ではゲーム性を加えており、サイコロの目に応じて様々な質問に回答するという内容で、それを集めてみんなの声として紹介するという非常に面白い企画でした。参加するとアルファ米も貰えてお得感もあり、素晴らしいブースだと感じました。



他にも地元消防団の方による水消火器体験やガイアの炊き出しブースの冷や汁試食もあり、起震車こそ動きませんでしたが、沢山の方々に参加して頂いて、非常に内容の濃い体験会となりました。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

いかがでしたか?今回の体験会では、起震車による揺れの恐ろしさを体感するだけでなく、その他、多くの体験を通じて災害時に直結する実践的な知識と対策を深く学ぶ貴重な機会となりました。災害時の大きな揺れや不安に直面したとき、自分や大切な人の身を守る力となるのは、日頃の訓練や知識の積み重ねです。今回の体験会で感じたことや学んだ防災対策を、ぜひご家庭や各施設での「日常の備え」に繋げていただければ幸いです。今後も皆様と共に防災意識を高めていけるよう、実践的で役に立つ企画に取り組んでまいります。次回もぜひご参加をお待ちしております。

防災クイズ　～あなたは、何問正解出来る？地震編～





１，家にいるときに激しい揺れ（地震）に襲われました。まず最初に取るべき行動として、最も適切なものがどれでしょう？

A、慌てて外へ飛び出す
B、すぐに火元へ向かい、キッチンのコンロの火を消す
C、机やテーブルの下に入り、頭と体を守る
D、戸棚から非常用持ち出しバッグを取りに行く

答え：C
地震が起きた直後は、とにかく「頭を守る事」が最優先です。

２，大きな地震が治まり、避難所へ移動することにしました。家を留守にする際、電気の復旧の発生する「通電火災」を防ぐために、」必ず行うべきことはどれでしょう？

A、テレビの主電源を切る
B、ブレーカーを落とす
C、部屋の電気をすべて点けておく
D、電子レンジのコンセントだけを抜く

答え：B
避難のために家を空ける時は、ブレーカーを落とすのが鉄則です。

３，街を歩いているときに強い地震に襲われました。周囲に広い公園などがなく、ビル街にいる場合、どこの身を寄せる事が最も安全でしょう？

A、新しくて頑丈そうなビルの内部（または、１階の広いロビーなど）
B、高くて立派なブロック塀のすぐ横
C、自動販売機のとなり
D、電柱の下

答え：A
落下物が一番の脅威になります。歩道にいるよりも、頑丈なビルの中に入ってしまった方が安全なケースが多いです。

４，海に近い場所（海岸や港の近く）で強い地震を感じました。揺れが収まったあと、最優先でとるべき行動はどうれでしょう？

A、荷物をまとめるために、一度自宅やホテルに戻る
B、正確な情報を得るために、その場でテレビやスマホのニュースをじっくり見る
C、津波が来るかどうか、確認するために海岸の様子を見に行く
D、すぐに高台や、近くの頑丈な「津波避難ビル」の上層階へ逃げる

答え：D

見てから逃げるでは絶対に間に合いません。海沿いで強い揺れを感じたら、警報を待たずに「より高く、より遠く」へ一刻も早く避難を始めることが何よりも大切です。

５，地震による断水に備えて、家庭で用意しておくべき「飲料水」の量として。１人あたり１日どのくらいが目安とされているでしょう？（調理に使う分も含みます）

A、コップ２杯分（約５００ｍｌ）

B、５００ｍｌのペットボトル１本分

C、約３リットル

D、約10リットル

答え：C

人間が健康を維持して生きるために必要な飲料水と、簡単な調理（非常食を戻すなど）に使う水を合わせると、１人あたり１日３リットルが必要とされています。

🌟どうでしたか？全問正解できましたか？いざと言う時のために、日ごろから防災に対する意識や新しい知識を持っていると少しは不安が軽くなると思います。

これからも楽しくみなさんと一緒に知識を深めていけたらと思っています。良ければ読んでくださいね。

次回は「避難所生活・応急手当編」をお届けしたいと思っています。　お楽しみに～👌　　菅野

災害時における、行方不明者について

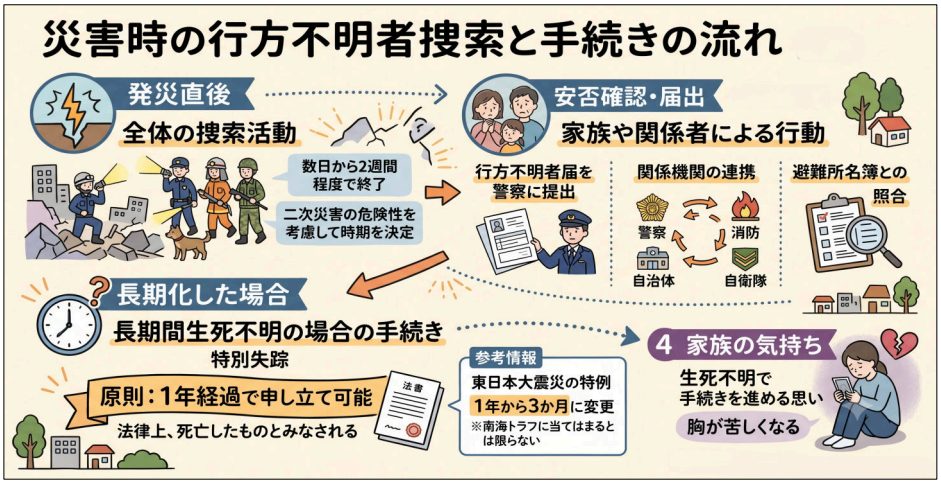
３０年以内には来ると言われている南海トラフ地震ですが、これがいざ来た際に家族や大切な人と離れていた場合、その人の行方が分からなくなった場合、どうなるのだろう？と不安に駆られ、今回は行方不明者について調べてみました。

大きな災害時には全体の捜索を行いますがこれは数日から２週間程度で終了するそうです。終了時期については二次災害などに注意し決めるとのことでした。

その後は家族や関係者から行方不明者届を警察に提出し、警察、消防、自治体、自衛隊が連携し、各避難所の名簿と照合しながら進めていきます。

長期間生死の確認ができない場合は特別失踪の手続きを進めて、法律上、死亡したものとみなされます。１年間生死が分からない時に申し立てができます。ちなみに東日本大震災では１年から３か月に変更されていますがこれは当時の特例とのことです。南海トラフに当てはまるとは限らないようです。

３か月から１年、生死が不明で法的には死亡したものとし、手続きを進めるのはどんな思いだろうと胸が苦しくなりました。今回は重めのテーマでお送りしましたが、何かのお役に立てれば幸いです。最後までお読みいただきありがとうございました。（石川）

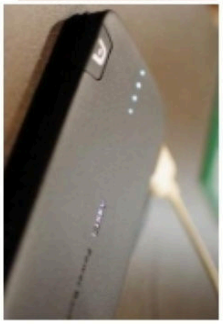


準備していても…

防災リュック等災害に備えて準備している方がいると思いますが買ったはいいが点検を定期的に行っていない方もいるのではないでしょうか？



意外と忘れがちなのが乾電池を使用した物です。携帯ラジオや懐中電灯等乾電池を使用しているものは使えるのかの確認や乾電池から液漏れがないかの確認もしなければいけません。予備の電池もあればその電池も確認をします。物の準備をしていてもなかなかそこまではしないと思うのでぜひやってみてください。



情報を得るためにスマホを使用することがあると思うので充電するためにモバイルバッテリーを準備している方もいると思います。モバイルバッテリーも準備しているだけで充電をしていない場合があるそうです。一度満充電しても時間が経つと自然放電で少しずつ充電がなくなっていきます。充電したままだと電池内部の化学反応が変化したり、自然放電が進んだりして劣化や故障の原因となるので３か月に１回ほど充電の確認をすると良いそうです。

食料や飲料の期限も確認しましょう。そこで賞味期限と消費期限の表記があると思いますが皆さんは違いを知っているでしょうか。
消費期限は急速に品質が劣化するものであり、賞味期限は比較的傷みにくい食品に表示するものです。
消費期限は弁当、調理パン、惣菜、生菓子類、食肉、生めん類などに表示されています。賞味期限はスナック菓子、即席めん類、缶詰め等の食品に表示されています。

消費期限	賞味期限
急速に劣化する食品に表示。 期限を越えると安全でなくなる可能性がある。	比較的傷みにくい食品に表示。 期限を越えてもすぐに安全性に問題が発生するとは限らない。
食肉・惣菜・生菓子類など	スナック菓子・缶詰など



災害に備えての食べ物なので缶詰めのものが多かったりします。なので賞味期限の表示が多いと思います。非常食で２年以上の賞味期限がある商品なら未開封で適切に保存されていたら1か月過ぎても食べられるそうです。5年であれば3か月、10年なら半年、20年なら1年食べられるそうです。どうしてもの場合はそれを食べないといけないこともあると思いますが定期的に確認して期限以内のものを食べられるようにしましょう。(井田)



今回は、被害に備えや被害にあった時の対応など
情報発信しているサイトやアプリを紹介します。



防災 THE PRESS

災害の発生時に国や自治体の支援がすぐに届かない可能性があることを踏まえ、個人や家庭での防災意識向上と行動の準備を支援することを目的としています。特に、日常では忘れがちな災害への備えを、身近に感じられる形で紹介している。

@BOUSAI_OFFICIAL

防災エナジー

日々の暮らしに寄り添いながら防災を考えるために 4 つの視点で情報発信をしている
①災害に備える②災害のリアル③災害の歴史④災害が起きたら、4 つの視点から安心のヒントを情報発信している。

@BOUSAIENERGY

防災もしも

災害の特徴や対策、二次災害への備え、家庭での防災グッズ準備、避難時の注意点といった情報を幅広く提供している。地震・台風・集中豪雨・感染症・火山噴火などの災害ごとの対策や、家族、地域、職場での備えがまとまてある。

① 特務機関 NERV 防災

NERV アプリは、気象庁の気象業務支援センターと専用回線で接続しており、一次情報をほぼリアルタイムで受信します

- 地震・津波・噴火速報や特別警報のリアルタイム通知
- 土砂災害・浸水害・洪水害の危険度情報
- 雨雲レーダー、アメダス、天気予報、台風進路、降灰予報、積雪深など日常生活に役立つ情報
- Ｊアラート（国民保護情報）やダム放流通知も統合

② COCODAYO（ココダヨ）

「家族の安否確認」に特化した、位置情報共有型の防災アプリです。災害警報が発令される と、アプリが自動的に起動し、登録したメンバーの現在地をグループに共有します

③ Cross Zero（クロスゼロ）

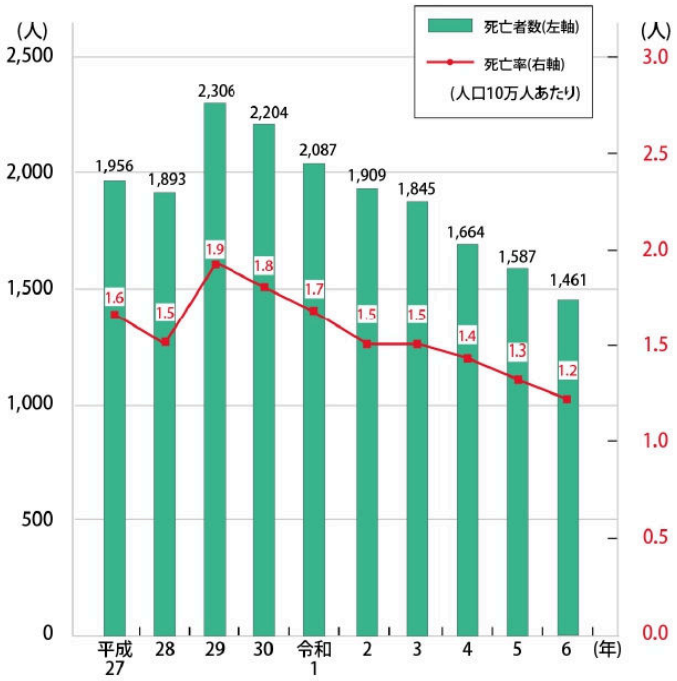
防災の「準備→発災→避難→復旧」の全フェーズをカバーする総合防災アプリです。地震速報・大雨・洪水情報などをリアルタイムで通知する機能に加え、安否確認・位置情報共有・バッテリー残量の共有・家族専用チャットまで搭載しています。

災害に備えて様々な情報が載っているので、時間のある時に検索をしていただけると嬉しいです。（瀧川）

結核を知っていますか？

日本では、結核患者の減少とともに結核への関心が薄れ、
予防に対する意識も薄らいだことが懸念されておりそのため、結核を発症してもそれと気づかずに
受診が遅れるケースが少なくありません。
結核は古くて新しい感染症といわれたいます。日本では毎年10,000人が新たに結核を発症し、
毎年1,400人以上の方が結核で亡くなっているそうです。

我が国の結核による死亡者・死亡率の推移



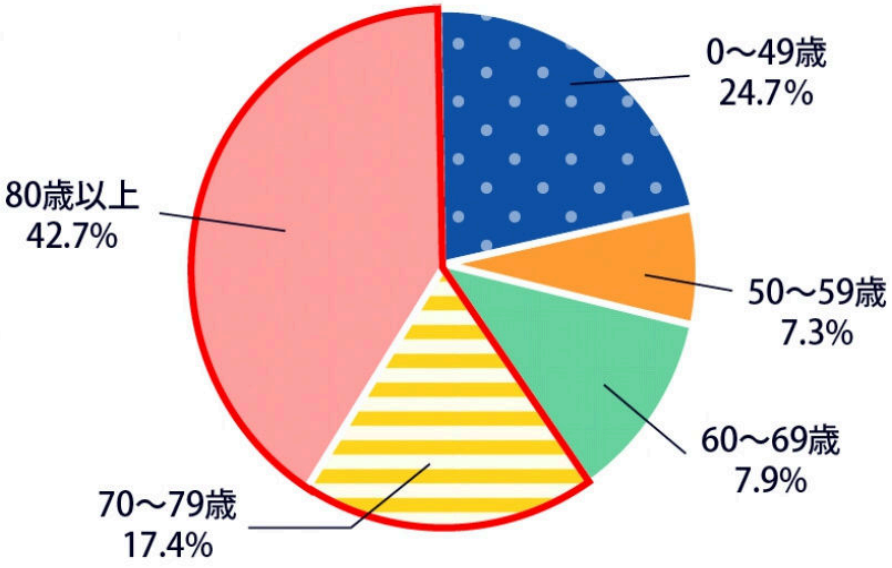
結核は、結核菌によって引き起こされる感染症です。

結核菌は、体内に入り込んで増殖した場所によって、肺結核、腸結核、腎結核などを引き起こし
日本ではこのうち「肺結核」が、結核患者の約8割を占めているそうです。

結核菌が肺の中で増殖し、発症した場合の初期症状は、咳や痰、発熱、風邪に似た症状で、
これが２週間以上続くのでこのような症状が長く続く場合は早めに受診する事が必要です。
体重が減る、寝汗をかくなどの症状が現れたり、病気が進行すると血の混じった痰が出始め
さらに重症になると血を吐いたり、呼吸困難に陥ったりします。



最近の日本の結核患者の傾向をみると、70歳以上の高齢者が約6割を占めています。
かつて結核がまん延したときに感染し、若いうちは発症が抑えられていたのが、
高齢になって免疫力が落ちたことなどから発症する人が増えたと考えられます。
また新登録結核患者数（令和6年（2024年））が最も多いのは東京都の1,187人で、
次いで大阪府の1,118人と、大都市圏で多くなっています。



感染予防・発症予防のどちらにも共通する重要なことは、体の免疫力を高めておくことです。
もしも結核菌を吸い込んでも免疫力が高ければ、結核菌が体内深く侵入する前に結核菌を退治でき
結核菌に感染してしまった場合でも、免疫力が高ければ結核菌の増殖が抑えられ、
発症せずに済みます。
規則正しい生活と栄養バランスのよい食事、十分な睡眠、適度な運動などが重要です。
ふだんから、夜更かしなどの不規則な生活や喫煙をせずに、健康的な生活を心がけ、

症状がなくても定期的に健診を受けましょう。
（BCGの予防効果は10数年で切れるといわれている為）
※咳やくしゃみをするときは、ティッシュペーパーで口元を押さえたり、マスクをしたりするなど「咳エチケット」を心がけ、周囲の人への感染を防ぎましょう。
結核の感染予防だけでなく、インフルエンザなど他の感染症を予防する上でも重要です。

厚生労働省では、毎年9月24日から30日を「結核・呼吸器感染症予防週間」と定めてます



自分がせき込みが激しく、長く続いたので調べてみました。
風邪は万病の元といいます。皆さん体調のお変化に気を付けてください。（森下）

身近な新聞紙が防災グッズに！

災害時には、身近にある新聞紙がさまざまな場面で役立ちます。
普段から作り方を覚えておくと、いざという時に安心です。

新聞紙が防災に役立つ理由

- 保温性が高い（空気の層を作る）
- 吸水性がある
- 折って形を作れるので即席アイテムに変身
- 軽くて大量に備蓄しやすい

防災豆知識

- 新聞紙は保温にも使える
- 丸めると緩衝材や枕になる
- 窓のすき間風対策にも活用できる
- 生ごみや汚物の処理にも役立つ

【実際の感想】底が二重になるので、床に散らばった小さなガラス片などから足を守る安心感があります。
履いてみると意外としっかりしていて、室内を歩く程度なら十分使えました。半分サイズで折ると子供サイズができます。

スリッパ























コップ

【実際の感想】
思っていたより安定感があり、紙コップがない時の応急用として十分使えそうです。ビニール袋を重ねれば水漏れを気にせず使えます。小物入れとしても活用できます。

















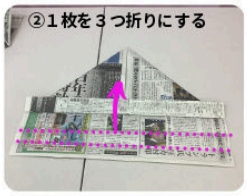


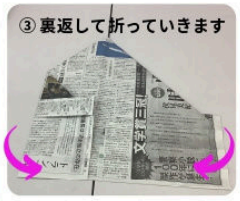


お皿

【実際の感想】
ラップやビニール袋を重ねて使うことで、食器を汚さず繰り返し使用できます。水が貴重な災害時にはとても便利だと感じました。





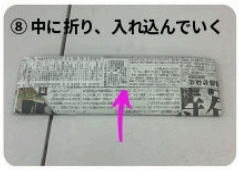


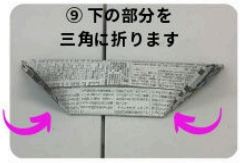










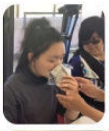




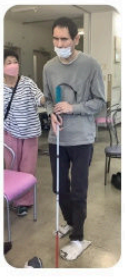












利用者様と職員で試している様子です。
楽しみながら防災を学び、「家でも作ってみたい」との声が聞かれました。

被災ローン減免制度って何？

今回は被災ローン減免制度について説明します。被災ローン減免制度とは、被災者の為の住宅ローン等の減免制度です。最大500万円の預貯金、被災者再建支援金、義援金等、一定の財産を手元に残して債務整理する事が出来ます。対象は災害救助法が適応された自然災害の影響で住宅や事務所が被災し、ローンの返済が困難な個人または個人事業者です。法律上の破産手続きとは異なり個人信用情報(ブラックリスト)には登録されない為、新たな借り入れに影響しません。原則として保証人への支払い請求が無いことが特徴です。



●債務免除・減額の例

Aさん(男性)：自宅が半壊、応急仮設住宅に入居。
収入が減少し、返済が困難になる恐れ

制度成立前の負債残高

住宅ローン	負債残高800万円

↓

制度成立後の債務免除結果

住宅ローン	負債残高300万円	免除額：500万円

住宅ローン500万円分の免除を受け、生活再建に必要なお金と土地を残し、土地の価格相当額300万円分を分割返済する事にした。

※利用には一定の要件がある為、ローンを組んでいる金融機関に問い合わせてみましょう。

公的支援は応急処置的なものが多く、受給にも条件がある事がほとんどです。事前にできる限りの対策をしておきましょう。(祢宜田)

委員長のおススメ⑯特別編

奥能登旅～能登半島の今を知る～

このコーナーでは毎回、私が見たり聞いたり体験したりした事でこれはいいな！と思ったことを紹介するコーナーです。今回は第16回特別編として、先日、約13年ぶりに能登半島を車で周ってきましたので、その様子を紹介していきたいと思います。

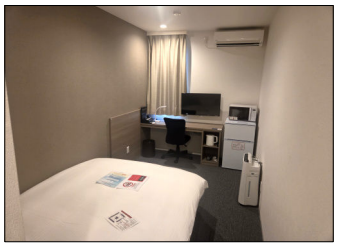
それでは第16回特別編スタートです。

皆様こんにちは。先ほども言ったように約13年ぶりの能登訪問ということで、前回は結婚10年目の記念として珠洲市の最先端にある聖域の岬の崖下「ランプの宿」に泊まるために訪問させていただきました。「ランプの宿」は文字通りランプの明かりを前面に出す情緒あふれる雰囲気の良いホテルで、またそろそろ泊まりに行きたいと考えていたところに能登半島地震が起きてしまいました。

その影響もあってランプの宿は現在も休業中で営業再開はまだ未定ということでした。もちろん休業中なのは私も知ってましたが、隣接する聖域の岬は営業しているみたいなので、とりあえず能登半島の現状も見ながら行ってみて能登半島は今はどのような状態なのか？見てみるのが今回の旅の目的です。とはいっても愛知県からの能登半島の先端まで車で行くので、かなりの走行距離になり、きつそうなので、まずは富山県で一泊してから次の日に能登半島を周る予定です。また今回の旅に至っては地震の影響もあり、かなり防災色の強い旅になると思われるので子供たちはもちろん、嫁さんすら付いて来ませんでした（悲）。まぁですが気ままな一人旅ということで自由にのんびり行きたいところに行ってきました。



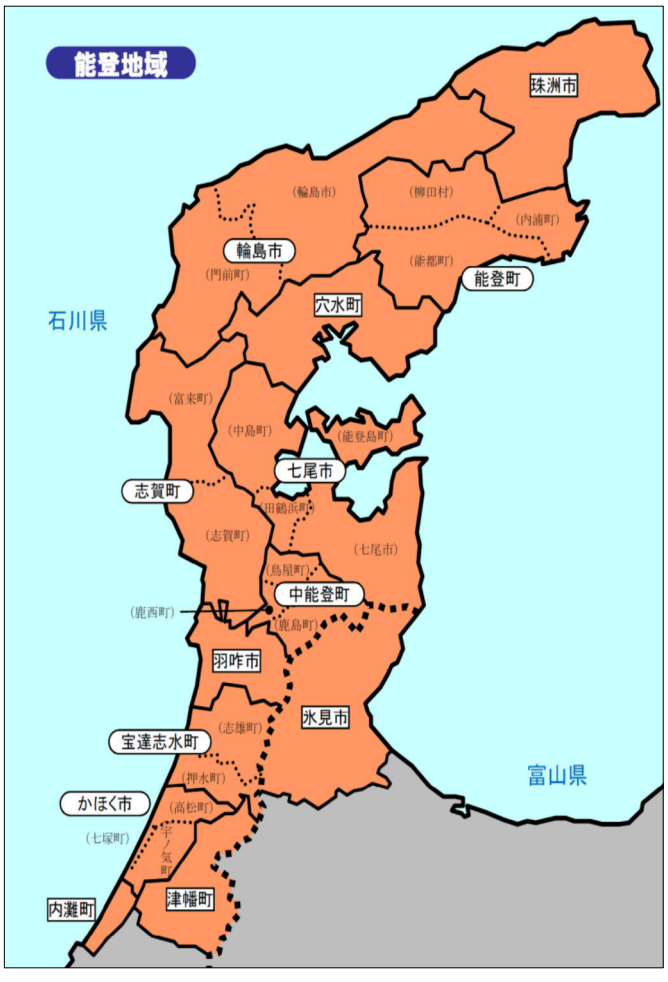
まず先ほど、防災色が強いといった通り、今回は宿泊先までこだわりました。きままな一人旅ということで出来るだけ費用を抑えながら快適に過ごせないかと考えて宿泊先を検索していたところ、「レスキューホテル」というものが目に留まりました。レスキューホテルというものはいわゆるコンテナ型のホテルなんですが、平時は通常のコンテナホテルとして、大規模災害時などが発生した際は、そのコンテナをトラック等に積んで現地にそのままは運んで仮設住宅として利用可能という画期的なシステムを採用したホテルだそうです。またこうしたシステムにより、ホテル業界初の「フェーズフリー」商品として全国に141拠点、5615客室、201災害協定を結んでいるそうです。





今回の旅は2泊3日で、1泊目は富山県、2泊目は石川県でしたが両ホテルとも基本的な作りは内装や備品にいたるまでまったく同じで必要なものはそろっており、非常に快適に過ごさせていただくことができました。で気になる宿泊費ですが休日前は高くなるみたいで簡単な朝食付きで、土曜日は7000円程、日曜日は5000円程で泊まれました。全国展開しているので皆さんも機会があればどうでしょうか？

さて、そのような感じで快適に過ごさせていただき、翌日は早朝に能登半島に向けて出発しました。富山から氷見市に入り石川県に入りましたが道中は特に問題なく進むことができましたが七尾市から能登島町、穴水町あたりから少しずつ地震の爪痕がみられるようになってきました。また、このあたりから仮設住宅であろう施設もよく見かけるようになり、いまだ自宅に戻れず生活をしている人が多いのだと実感させられました。そのような中、車を走らせていると何か「ポケモン」の文字が？能登にポケモン？と思い看板を見ると、どうやら「のと里山空港」が期間限定はありますが「のと里山ウィズユーポケモン空港」になってるではありませんか。ここは13年前も一度寄りまして、その時はただの地方空港で人影もまばらでしたが、ポケモンのパワーはすさまじく、家族連れでひしめき合い、限定ショップに至っては完全にお祭り状態でした。そして空港内は文字通り完全にポケモンにジャックされており、おっさん一人ではなかなかの浮きようでしたがポケモン好きの家族連れにはかなり魅力的なところだと思いました。後にも先にも能登半島でここが一番、人がいたと思います。







そんな感じでポケモン空港をあとにしまして、次に向かった先は、かつて軍艦島と呼ばれた見附島を見に行くことにしました。





この写真は13年前に現地で写した写真です。どうですか？その雄大さはまさに軍艦島と呼ばれるにふさわしいフォルムではないでしょうか？軍艦島といえば長崎県の軍艦島が有名ですがあちらは人工物の軍艦そのものな感じですが、こちらは島自体がまさに軍艦を思わせる形をしていますね。

で、こちらが今回撮影してきた写真なんですが、どうでしょうか？この島がある珠洲市は地震の影響を大きく受けた地域であり、見附島もこのように地震の影響で両サイドが崩れおちた結果、現在のような形になってしまいました。島の形ごと変える程の地震規模の大きさに私自身、非常に恐怖を覚え、まさに百聞は一見にしかずといったところでしょうか。

また、見附島一帯は「えんむすびーち」と、命名されカップルに人気のあるスポットのようです。ここにもポケモンのオブジェが設置してあり、見附島をバックにこのような記念撮影が可能になっていました。さすが、あらためてポケモンのパワーもすごいなぁと感じてしまう一幕でした。



そんな見附島をあとにしまして、いよいよ今回の旅の目的地である聖域の岬、ランプの宿に向かいます。見附島から海岸沿いを走りながら外の景色を見ていると、あちこちで地震の爪痕がのこっています。さすがにこの辺りになると被害が大きく、山側の土砂は崩れ落ち、電信柱も倒れたままになっている箇所もいたるところで目撃しました。道路自体はかなり復旧が進んでいて通ることは可能ですが、片側通行で信号によって制御している場所が多く点在しているような状況です。そのような場面を目撃しつつ、４０分程車を走らせるとついにランプの宿が見えてきました。



ランプの宿、よしが浦温泉は１５７９年に創業され４５０年以上の歴史を持つ秘湯です。私も１３年前に一度泊まった時は館内の無数のランプのこもれびに囲まれ、なんとも言えない幻想的な雰囲気の中、極上の癒しの空間に魅了されたものでした。ですが、現在はこのランプの宿自体は休業中で営業再開に向けて調整を続けているようです。またこの場所には「空中展望台スカイバード」と「青の洞窟」が併設されており、日本３大パワースポットの一つとして非常に人気があります。この日も結構な人が観光できておりミュージアムショップも沢山の人で賑わっていました。



この写真は１３年前にランプの宿を上から写した写真になります。で次の写真は先日写した写真になります。



２つの写真の違いはわかりますか？最近の写真は海水が少なくて地表がむき出しになっている部分が多く見えませんか？これは先の能登半島地震の影響で地表がなんと４ｍも隆起したためこのような地形になってしまったようです。あらためて地震のエネルギーには驚かされるばかりです。

こうしてランプの宿周辺を一通り探索しましたが、建物自体は上から見た限りですが、しっかりと建っているようで、ひとまずは安心しました。いつの日かまた営業が再開されたらぜひ再び泊まりにいこうと思っています。そんなところでランプの宿をあとにしながら、海岸沿いを車で走らせ輪島方面や次の宿泊地に向かいました。途中、ここが震源地であろう地域を車で通過しましたが、さすがに被害が大きく、崩れた山肌がいたるところに点在しているのが分かります。そしてまさに今現在も道路の復旧工事があちこちで行われていて震度７の地震の規模の大きさには驚かされるばかりでした。そのような状況の中、今回の旅で震源地にほど近いでもかなりの道の駅がすでに営業再開していることには本当に感動しました。なかでも主に海水を使用した塩を生成して販売している、「すず塩田村」は大の塩好きな私にとってまさに天国のような場所です。１３年前にも寄って買いましたが今回も制限一杯までまでＧＥＴさせていただきました。ついでに食べた塩ソフトもまろやかなな塩の後味が非常に美味でした。



今回はこのような感じで能登半島を車で周ってきました。復興についてはかなり進んでおり、観光客が車で周る分には大きな問題はありませんでした。

能登半島地震が起きてからまもなく３年になろうとしています。今回、私が現地を周って分かったことは人々の生きる力です。道の駅や主要な観光地はほぼ普段通り営業しており、元気に活気あふれる声がそこかしらから聞こえてきました。我々が出来ることは少ないかもしれませんが、これからも能登を応援していきたいと強く思う旅となりました。（松原）

編集後記

ダブルエッチジェーの皆様、今回もここまで読んでいただきありがとうございました。

今年の夏は皆様の記憶にも新しく、大きな災害が多く起こりました。まず全国的に記録的な猛暑に加えて、熊本では７月２８日に震度７の地震が起きて多くの尊い命が奪われました。あの地震で衝撃的だったのはやはり爆発事故です。この件で大きな揺れが収まった後でも２次被害が発生するリスクを考える必要性を感じました。また記憶に新しい８月お盆に千葉県を集中豪雨が襲いました。私もニュースで確認できた時はすでに警戒レベル５が表示されていて、かなり切迫した状況であると理解しました。今回のように災害は当たり前ですが時と場所を選んではくれません。自然は大きな恵みを与えてくれる一方で時に牙を剥きます。我々が出来ることは如何に備えを充実させ自助力の向上に努めるか？にかかっていると、あらためて再認識させられる夏となりました。（松原）